

# アジア独特の海



Photo & Text Yasuaki Kagii  
Special thanks ダイバーズプロ IRON

## 三保真崎の シルトと色彩

三保の海岸と富士山が作り出す素晴らしい風景のなかで海にエントリーする。

そこは、粒子の細かい泥を多く含む海底が広がり、

珍種や泥ハゼ、甲殻類が多く生息する風変わりなダイビングエリア。

透明度が低く、混沌とした海中の先にはアジア独特の泥と色彩の世界が広がっていた。

日本の他のエリアでは例を見ない三保の海、その特異な環境と多彩な色に注目し、

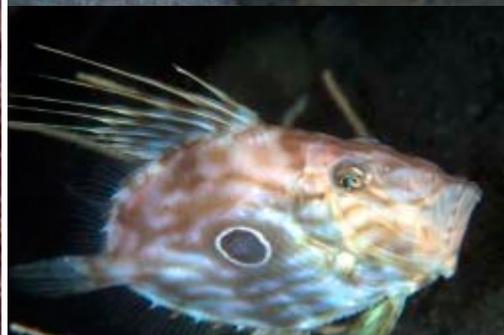
WEB-LUE初の国内取材を行なった。

 **Information Link**  情報HPへジャンプ  
<http://www02.so-net.ne.jp/~iron/>



# 泥 Silt

右) 体長約30センチはあるマエソ。迫力のある顔付きた。上) まるで銀河のようなコウイカの体表面。生息地は外海だが産卵期になると産卵のために沿岸部にやって来る



左上) 巣穴から可憐な姿を披露してくれたハゴロモハゼの仲間  
左中) 体の真ん中にある黒丸を弓矢的に見立てて「的ダイ」や、馬の様な顔つきから「馬頭ダイ」になったと名前の由来がある  
左下) 海底でよく見かるヒレナガハギ。警戒心は個体によって異なる  
右上) イッテンアカタチは三保の代表的な魚だ(写真提供・鉄多加志さん)  
右下) まるでキツネのような独特な顔のダイナンウミヘビ



## シルトの海底で 見つけた 生命の輝き

ダイビングポイントである三保真崎(まさき)は、水深3~4mの浅場からの急勾配の砂利斜面が水深約17~18mまで落ち込み、そこから水深20~23mの泥土質の平らな海底が続く。三保の海の特徴でもある泥土質の環境では、他のエリアでは極端に観察頻度が少ない生物に出会えることが楽しみのひとつとなっている。例えばアカタチは、三保では2属4種のアカタチが観察されている。他のエリアでも見ることはできるが、定量的な観察、また水中撮影が簡単にできるころはそうなはい。本来アカタチの仲間は、水深70m以深に生

息するが、「標準生息水深」が適応しない三保ならではの人気種だ。また、通称・ハゴロモハゼと呼ばれるハゼの仲間がいる。こちらも「羽衣の松」で有名な三保の松原の懐で会いたい可憐なハゼである。その他にも、ヒレナガハゼやコウイカ、ダイナンウミヘビなど多様な生物に出会い、撮影することができた。そしてフィルムを現像した後に、面白いことに気が付いた。それは、彼らの体色の美しさだった。環境によって同じ生物でも色彩が変異することは知っていたが、今回出会ったコウイカは、これまで出会った他のイカと異なる色彩

を持ち、まるで銀河のような模様を身に染めていた。また、ダイナンウミヘビの目の銀色の輝き、ヒレナガハギのメタリックイエローのライン模様も一際輝く。きっと海のなかでも肉眼で確認できたはずだが、私は撮影に夢中になって気が付いていなかった。身体の一箇所だけでも、まるでシンボルのように輝く何かを身に纏っている。それは南国の白い砂地で出会う魚たちには備わっていない。透明度が低く、薄暗い三保の海底で出会った小さな輝きそのものが、生命の尊さのようにも思える。小さな輝きが三保の海に溢れていた。

見事に咲き誇ったヤギなどの腔腸類。少し暗い海に隠されたお花畑



上) キサンゴの上に見つけたウミタケハゼ。フォトジェニックな被写体だった  
右) 撮影中の鍵井カメラマン。ガイドの鉄さんが被写体にライトを当ててくれている (撮影・越智隆治)



上) 外套膜で擬態したトラフケボリタカラガイ  
左) 真っ赤なお花畑からカサゴがこちら向っていた

## 三保の海のもうひとつの魅力 カラフルなお花畑

今回、三保の海に初めて潜り、ヤギやウチワなどの腔腸類の豊かさにとっても驚いた。それは、今まで抱いていた三保の海のイメージとは大変異なり、撮影者の私にとってはとても嬉しい誤算となった。ガイドして頂いたアイアンの鉄さんは三保から情報を発信する中心人物であり、通称「視界不良の魔術師」。マッドな環境には滅法強く、泥地に生息する生物を中心に指標軸が組み立てられているという人物。彼の発信する写真、文章の一片から私は勝手に、三保の海は一面がマッド(泥)の世界だと思い込んでいた。(そのようなダイバーの方は多いと思いますが……)。そして、取材2日目の朝。「今日はお花畑コースに行きますか?」と鉄さんから思いも寄らない提案があった。沖に向かって少し左にコースを取ると、水深約20mにキサンゴやエダアザミの群生が見られ、ヤギやウチワなどの腔腸類が連立しているエリアに向かった。砂地から生えるキサンゴがまるでヒマワリのように満開に咲き、その間で、パステル調のエダアザミが揺れている。大きな黄色いヤギを見れば、ツリフネキヌツツミガイ、ベニキヌツツミガイ、トラフケボリタカラガイなど外套膜で擬態したカラフルな貝がたくさん見つかる。水の層によって、太陽光が色を吸収するため、このお花畑のすべての色を知ることができないが、驚くほど、カラフルな色彩のカーペットが広がっている事実心嬉しくなった。



ツリフネキヌツツミガイなどの美しい貝の仲間が、三保の海では多く見つけることができる



アジア独特の海 三保真崎のシルトと色彩



上) エダアザミの透けた群体のなかにたくさんのプラヌラ(幼生)を確認することができた。下左) カサゴの顔もじっくり観察すると味がある。下右) 群れで見ることのできるサクラダイ(写真は雄)



コエダモドキの中にもプラヌラ(幼生)を発見(撮影・越智隆治)



キタマクラに捕食されていたナガヒカリボヤ(撮影・越智隆治)



右) エキジットしたガイドの鉄さん  
右) カサゴとコウライトリスの仲  
良し! ショット

## 三保の海へ

「三保の海は、ダイビングの面白さを再発見させてくれる場所です。ダイビングを続けていくとモチベーションが落ちていく時があります。ライセンスを取得した当初の楽しみを忘れがちになります。ダイビングという遊びを続けていくなかで、ある時、ポツカリと、自己の欲求に穴が開いてしまうことはないですか? そんな時、三保の海はその開いた穴に、忘れていたピース(破片)を埋めてくれるはずです。」とアイアンの鉄さんは話してくれた。

確かにそうだった。雑誌の取材などで、海外や沖縄の海でマンタや美しいサンゴを目にする事が多い私は、それが少し見慣れたものになり、ダイビングという無辺の遊びに少し変化がなくなっていたのかもしれない。

そして、三保の海に潜りこんだ時、「やっぱりダイビングは面白い!」とドライスーツに包まれた体の奥底でじわじわと感じていた。透明度は、それほど良くはないが、生物と対面するには十分だった。むしろ、他に気を捕われないため、小さな生物をより見つめることができた。今回は三保での定番の魚種、貝類、甲殻類のほかに、教えてもらったエダアザミが特に印象的だった。ライトで照らされたピンク色の透けた群体のなかにはたくさんのプラヌラ(幼生)を確認することができた。薄暗い海のなかで浮かび上がったその新しい命は来年には海中に放出されるそうだ。また、エキジット寸前の浅瀬に転がっている玉砂利に付いたケイ藻類が小さな酸素の粒をいくつも作っていた。可笑しい生物

とのご対面の合間に三保の海に転がる(生命の誕生)や(生命の根源)を視覚から知ることができる。「三保の海は今まで考えていなかったステージに連れていってくれます」とも鉄さんは語ってくれた。

午後の2本目のダイビングにエントリーする前に、1本目のダイビングの時よりも、対岸の富士山がよりはっきりと見えた。その雄大な景色に向って、再び海のなかへ潜りこんだ。

日常生活のように急ぎ足だと、大切なものを見落としそうになる三保の海だから、些細な変化も気付いていた。そう考えると類に当たる冷たい海水も少し違った感触になっていた。

楽  
The enjoyment  
www.web-lue.com

アジア独特の海 三保真崎のシルトと色彩

Web-lue 2005-2006 Winter

Information Link <http://www02.so-net.ne.jp/~iron/> click! 情報HPへジャンプ

**鉄** 2年振りに潜った三保の海の印象はいかがでしたか？

**越智** 今回は楽しかったです。前は台風の後でしたし(笑)。思いの外、水温もあり寒くなかったですし。それにしても面白い環境でのダイビングですよ。富士山を目の前にエントリーする。あのように入河湾の横にただ広い開けた場所からエントリーするのって珍しいですよ。釣り人の横から海に入りますし。

**鉄** はい、そうですね。パリのビーチによくに雰囲気は似てると言われます。トランバンの方の黒い砂地のビーチの方。また、海の中はヨコシイシモチやアカオビハナダイなどから鹿児

島の錦江湾、また珍種の観察で言えば、パリのシークレットベイに似ているといわれます。

**越智** アカオビハナダイ？ あー、タイのローカルポイントで見たことがあります。それに真っ赤に白い点のあるサクラダイも僕は見慣れないので、とてもキレイな魚だと思いました。

**鉄** サクラダイなどに関しては、やはり水深20m前後で見られることは珍しいと思います。大瀬崎だと、生息するヤギなどのある同じ環境が25m以深ですからね。今は幼魚も見ることが出来ます。その個体を狙ってやってくるダイバーもいて。幼魚が小さくまとまる時もあります。

**越智** それは珍しいですね。

**鉄** まず他のエリアでは見えないと思います。ここは生態のサイクルが閉鎖的な環境で潮の滞留のせいで、放精放卵された卵は一度潮に乗って去りますが、また、潮の乗って戻ってくる。拡散されないで、ひとつの場所に集まるのです。

**越智** 基本的にマクロの世界ですよ。

**鉄** 時々透明度が良くなり、ワイドの撮影も出来ます。でも、三保の海の特徴はやはり、マクロの世界でしょうか。

**越智** 他に何か特徴的な生物はいますか？

**鉄** 4種類見られるアカタチもそうです。ハゼ系も多いです。あと、今日も砂地の傾斜にいました

が、ベラギンポとクロエリギンポ。

**越智** マーシャルやパラオで同じ仲間のリュウグウベラギンポを同じような環境で見ました。

**鉄** これから少しずつ大きくなり、そのうち集団でホバーリングして、傾斜の一面を覆います。20~24mクラスのレンズで太陽も入れ込んで面白い写真が撮れますよ。また、全体的に生物がデカイのも三保の特徴です。例えば、今日も見たクロイシモチやゲンロクダイも大きかったですよ？

**越智** タキゲンロクダイは少し沖にいたやつですね。あれもあまり他のエリアでは見えない魚ですよ。話は変わりますが、2年前に来た時に海の



## 鉄 多加志 × 越智 隆治



写真左から) 対談中のアイアン・鉄多加志さん/2年振りに三保を訪れた越智隆治カメラマン/可愛い、とてもキュートなサクラダイの幼魚/真っ赤ボディが目立つインドアカタチ (写真提供・鉄多加志さん) /タキゲンロクダイは幼魚も観察できた

四季の話をよくされてましょね。海の中の四季はけっこう明確なのですか？

**鉄** 春夏秋冬というよりは、海の中の季節感です。夏を中心とした黒潮の横軸の流れ。これはチョウチョウウオなどの季節来遊魚。冬の湧昇流による縦軸の流れ。これはマトウダイやアンコウ、キアンコウ、サギフエなどの深海からの魚。この2本の季節のラインを意識して、海と付き合っています。縦軸はあまり意識されていないこともあります。そのようなことを含めた海の季節感の楽しみをゲストに提供しています。

**越智** 写真を撮影していて、どのような時、一番刺激が多いですか？

**鉄** 冬ですね。いろいろなものが落ちていて観察できますし。例えば、産卵から孵化のサイクルを考えると、夏ならば、マツバスズメダイは頻りに産卵を行いそのサイクルがとても短い。しかし、冬の場合だとガラスハゼは約5日間やサビハゼは10日間以上も必要です。勝手な解釈かもしれませんが、夏は他の生物もとても活性しているので食べられることを前提に産卵しているようです。他の生物と一緒にハッチアウトすると安全性も高いです。しかし、

活性が落ちている冬に産卵をすること魚たちが、命を大切にしているように思えるのです。エサはそれほど多くないですけど、生きていくためには十分にありますが。

**越智** カメラを持ったダイバーを多く見かけますが？

**鉄** 写真を撮影するダイバーの方も多いです。

**越智** 撮影したい環境や、お目当ての魚が20mと少し深度があるところに多いので、ガイドさんに教えてもらった方が断然、たくさんの方に会えるし、効率よく撮影できますよね。それにうんちくありで楽しいです。また、ガイドしてください。

**鉄** はい、いつでも潜りに来て下さい。毎回新しいサプライズを用意してお待ちしています(笑)



# 興津川の アユの産卵



川辺で落ちアユ釣りを楽しむ地元の人



左) 真ん中のメスを取り囲むようにし、産卵に加わろうとする数匹のオス  
下) 傷付き産卵を終えたアユは死を迎える



取材時期の11月25日、27日に興津川でアユの産卵に立ち会うことができました(26日は観察に行けず)。興津川は静岡市清水と山梨県の県境を源とし、清水地区の飲料水を支える水量豊かな川です。5月の後半に、東日本のトップを切ってアユ釣りが解禁されます。豊富な天然遡上のアユに加え、種苗放流も行われ、アユの他には、アナゴ、ニジマス、ウナギ、オイカワ(ハヤ)も生息しています。アユの産卵を確認したのは、河川中流以降の勾配が急に緩やかになった砂礫状で浮き石の多い瀬でした。河口から約400~500mの上った所で、人の生活圏内です。アユは産卵期になると背側面に黒色の、腹側面に赤色の婚姻色と追星があらわれます。サビ色と言われ、1日でその婚姻色に変化することもあるそうです。アユは突然、集団となつては砂礫底を掘り、1匹のメスの両側を2匹のオスが挟むように産卵します。その行為は日暮れまで永延と続きます。産卵の時、3匹のアユは口を開けながら小刻みに震え続けます。まるで痙攣しているような動きです。卵の外側には付着膜があり、それが反転して石などに付着します。チチブという川魚は巣床で産み落とされたばかり卵を頬張ります。その行為に対してアユは別に気にする様子がありません。また、近くで産卵を終えたアユの多くがそのまま死んでいくのですが、それも全く気にしません。彼らにとって、死とは私たちよりもっと身近な存在なのではないでしょうか。水面に向かって弧を描いては、川底に落ちていくアユの最期の姿から私は目を離すことはできませんでした。

死んだアユのすぐそばでも、アユの産卵行動は繰り返される



右) 産卵行動は日が暮れる夕方まで、永延と続いた  
上) チチブという魚がアユの産卵直後から、その卵を頬張る



# 魚占

Ayu

www.web-lue.com

アジア独特の海 三保真崎のシルトと色彩

Web-lue 2005-2006 Winter

 Information Link <http://www02.so-net.ne.jp/~iron/>  情報HPへジャンプ



撮影中の鍵井カメラマンとガイドの鉄さん。三保の海を熟知しているガイドさんが一緒に撮影もスムーズに進む(撮影・越智隆治)



陸から三保の海の特徴を教えてください(撮影・越智隆治)

左) 富士山を背景に潜り、取材を続けるガイドの鉄さんと鍵井カメラマン(撮影・越智隆治)  
下) 静岡駅で購入した(鯛めし)駅弁。本当に美味しかった



## 三保取材を終えて ……鍵井靖章

三保の海に始めて訪れましたが、とても楽しく充実した取材となりました。今回は第5回三保水中生物研究会講演会(11月26日)に講演者・ゲストプレゼンターとして参加させて頂き、その前後にWEB-LUEの取材を行いました。初日は越智さんも一緒に、鉄さんのガイドでマクロ撮影している様子など環境込みのワイドの撮影も行なっていたのですが、越智さんが近くで巻き上げる濁りに苦労しました……(笑) 本文で書きましたが、三保の海は目的がはっきりとしていて、テーマは泥と色のように僕には映りました。そして小さな(命のきらめき)をたくさん実感しました。滞在中に、鉄さんと向かった興津川ではアユの産卵に立ち会うという幸運にも恵まれました。毎日、海や川に向かうことが、取材とはいえ楽しみで仕方がなかったです。それに三



上) 取材途中、昼食に立ち寄った、そば処「鐘庵」清水三保総本店  
下) 桜エビのかき揚げそばとどんぶり

保の澄んだ空気が身体と気持ちを整えてくれました。ご飯はどれも最高に美味しかったです。特にアイアンの近くにあるそば処「鐘庵」清水三保総本店はゲストダイバーにも人気です。午前と午後のダイビングの合間に食べる地元名産の桜エビのかき揚げは、身体ばかりでなく、心も温まります。実はお土産として、桜エビとシラスを頂いたのですが、これが本当に絶品で甘みがあり、また三保に行く理由がひとつ増えました。今回、帰りは新幹線を利用したのですが、新しくなった清水駅は使い勝手も良く、また静岡駅で乗り換えて東京まで1時間。料金は片道5,670円とリーズナブル。そして何よりもアイアン・安本さんにお勧めされ静岡駅で購入した(鯛めし)駅弁がこれまた美味かった。そういえば、アイアンスタッフは美味しいもの、美味しい酒を良く知っていました。なんだか、最後はご飯のことばかりになりましたが、それも含めて三保への素晴らしい旅&取材でした。

第5回三保水中生物研究会講演会 [LINK!→](http://www02.so-net.ne.jp/~iron/miho_info.html) [http://www02.so-net.ne.jp/~iron/miho\\_info.html](http://www02.so-net.ne.jp/~iron/miho_info.html)

# 感

Impression

[www.web-lue.com](http://www.web-lue.com)

アジア独特の海 三保真崎のシルトと色彩

Web-lue 2005-2006 Winter

Information Link <http://www02.so-net.ne.jp/~iron/> 情報HPへジャンプ

## ダイバーズ プロ IRON

1978年に現所在地に店舗を構える。2000年にリニューアルオープン。日本一深くそして、世界的にも稀有な駿河湾最奥の三保半島をフィールドに、毎年数々の発見と驚きを提供している。講習やガイドだけでなく水中での工事・調査・撮影もこなす器用貧乏な常勤スタッフが4名いる。(笑)

大学や高校で講師をつとめ、潜水士としての経験を活かし、次世代のプロダイバー講習も実施している。地元ダイバーだけでなく多くの県外のダイバーからも支持を受け、毎日1名からガイドを受付けている。

ダイバーだけでなくの方々にも分かるような、スライドやビデオを使っただけでなく、不定期開催で行っているスライド大会では多くのダイバーの方々に好評と爆笑を得ている。



## 鉄 多加志

テツ タカシ

1965年10月生まれ三保が地元。高校卒業と同時にやっと三保から脱出！以来、代々木・横浜・札幌と移り住み、学業と仕事に段落をつけ、9年経過した後に三保に戻る。三保の海の偉大さを年々カミしめながら日夜潜っている。



## 三保の海を愛する

## Shop&Staff

## 小泉 昭

コイズミ アキラ

1960年4月焼津市出身。水産高校で行われた授業でダイビングを始める。スチール・ビデオを駆使して三保で数々の貴重な映像を納めている。コンパクトデジカメを毎年買い替え、日夜(デジカメの?)研究に勤しんでいる。



## 三保の魅力

他では見られない砂泥のフィールドが魅力です。アカタチ4種を始めとして、深海性の生物を比較的浅い所で観察出来るのが特徴です。横に広いポイントなので、ルートを変えなくても新しい発見があり楽しむ事が出来ます。沖にある堤防付近では、サクラダイやアカオビハナダイ等、これも比較的浅い水深で観察できます。ナビゲーションも簡単なので、ビギナーから十分に満足して遊ぶ事が出来ますよ。自分で生物を発見する楽しみを味わってみて下さい。

## 武内 昭人

タケウチ アキヒト

1962年10月愛媛県出身。東海大学海洋学部卒。潜水士である父の影響もあり大学内潜水訓練センターでダイビングを始める。伊豆海洋公園でスタッフ(アルバイト)で本格的にダイビングに目覚め、卒業後アイアンに入社し現在に至る。



## 三保の魅力

砂利の斜面が水深18mまで続き、そこからは、砂泥のゆるやかな海底が水深23mまでつづき、一見すると生物がいるの?と思うような海です。が、ゆっくりじっくり観察すると、どこにこんなと言われるくらいに多種多様な生物達に出会う事が出来ます。例えば、浅場を賑わす幼魚群や砂地を好む生物、中層ではアオリイカの産卵そして、砂泥地帯ではアカタチの仲間・ハゼの仲間・エビの仲間等、三保特有の生き物達がダイバーを迎えてくれます。

Wanted!

# スタッフ募集!

業務拡張に伴い  
優秀な人材を募集いたします。  
海が好きで、生涯海で働きたいと思っ  
ているような  
強い意志をもった人を求めています。  
業務に支障をきたさない程度でPC  
ができる方  
社会保険、厚生年金あり  
退職金および財形制度あり

- 勤務時間 8:00~19:00
- 休日 週休1日(シーズンにより変動)
- 勤務地 静岡市・清水
- 仕事内容 ショップ業務、サービス業務、職業潜水補助、水中撮影、調査
- 対象 25~35才まで
- 要普通自動車運転免許・潜水士・SSIインストラクター(取得していない場合は取得を前提)・大学卒業者
- ダイビング経験 ダイブマスターレベル経験者
- 応募方法 履歴書に志望動機をそえて郵送して下さい。書類審査後、ご連絡をさせていただきます。

■宛先  
〒424-0902  
静岡市清水折戸2丁目12-18  
ダイバーズ プロ アイアン  
スタッフ募集係

DIVER'S PRO  
IRON

TEL : 0543-34-0988/05055056434 (IP)  
FAX : 0543-34-5524

アジア独特の海 三保真崎のシルトと色彩